

1 市民による集中評価会議

これまで行政に声を届ける機会の少なかった方の参加を促し、その声を市政に反映させていくという、新しい市民参加手法の検証として、昨年度に引き続き実施した。

実施にあたっては、19年度におけるアンケート結果を踏まえ、開催日を1日間と設定した。

(1) 参加者

23人（無作為抽出で2,000人に依頼、承諾者108人の中から30人を抽出。（7人辞退））

(2) 評価対象

情報共有の役割を担う「広報番組」、及び市民参加の一手法である「パブリックコメント」について、その運用などを評価対象とした。（昨年度は冊子等個別の事例を対象としている。）

(3) アンケート結果

参加依頼時アンケート（488人から回答）

- ・無作為抽出で参加を呼びかける方法について、約6割が肯定的な見解を示した。
- ・承諾理由のうち、「市の事業を詳しく知りたい」が最も多く約5割、また、約2割が「市政への参加の機会を探していた」と回答した。

参加者アンケート

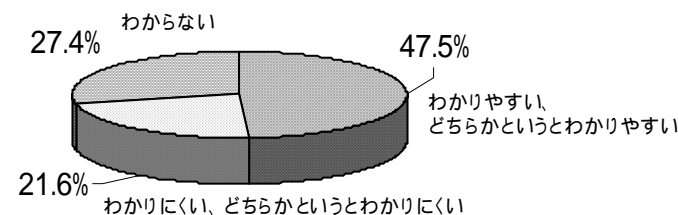
- ・会議への参加について、約9割が満足と回答した。（不満足は無し）
- ・会議の参加で得たものについて、「他人の意見が参考となった」が最も多く、次いで「市政への関心が高まった」「事業への理解が深まった」が多かった。
- ・その他、「参加をきっかけとして市政に興味を持つことができた」「無作為抽出で選ばれたことが参加の理由」「このような市民参加の機会があって良い」など、会議そのものに対する肯定意見を多数いただいた。

2 市政世論調査

まちづくりへの参加意識や、「わかりやすい情報提供」、「市政への市民参加」の取組に対する市民の満足度を幅広く把握するため、市政世論調査を活用した調査を20年度から実施している。

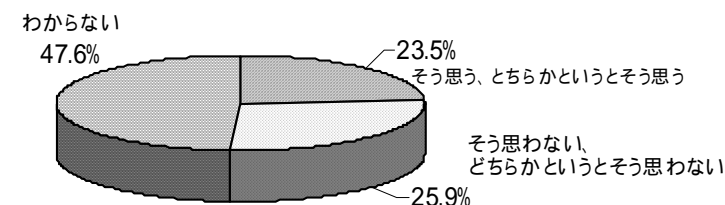
(1) 情報共有【札幌市の情報はわかりやすいか否か】

「わかりやすい」と回答した者が約半数である一方、わからないと回答した者も約3割となっている。



(2) 市民参加【札幌市は意見や提案を出しやすいまちか否か】

「わからない」と回答したものが約半数と、市民参加を身近に感じていないという結果となっている。



3 行政評価における市民自治の観点からの評価

行政評価システムの評価項目に「市民自治の観点からの評価」を取り入れ、19年度に実施した小事業全てについて、担当部局において「情報共有」・「市民参加」の観点からの自己評価を行なった。

総事業数1,583事業のうち、「情報共有」を図って推進した事業が447事業、同様に「市民参加」が328事業となっている（重複有り）が、評価の記載が十分でない事例も多く見られた。

内訳

項目	事業数	割合
総事業数	1,583事業	100.0%
「情報共有」を図って推進した事業（「市民参加」と重複あり）	447事業	28.2%
「市民参加」を取り入れて実施した事業（上記同様）	328事業	20.7%
記載なし（空欄又は「なし」等記載）	406事業	25.6%
記載内容が十分でない（ ）	353事業	22.3%
評価困難（「評価になじまない事業である」等記載）	144事業	9.1%

事業の実施効果や必要性を記載しているものなど。（事例は以下のとおり）

- ・事業は多くの市民が参加する市民参加型の事業である
 - ・事業の実施により市民参加を図ることができた
 - ・市民の要望により実施している事業である
- 等

21年度の取組

(1) 市民による集中評価会議

評価対象を「制度の運用」へと変更した結果、資料解釈が難しいとの声があったとともに、意見が出づらいつつも見られた。さらに、市として評価をいただきたい観点での意見が少ないなど、短時間で評価を実施する当該会議では「制度の運用」の評価は難しいものと思われた。

一方、参加依頼及び参加者アンケート結果などから、会議自体の有効性は認められるため、21年度は評価の対象を「個別の事例」に戻し、引き続き同様の手法の検証を行なっていく。

なお、本取組を市民自治による評価の仕組みの一手法として確立させていくことも視野に入れ、評価対象は庁内から募集する。

(2) 市政世論調査の活用

引き続き市政世論調査を活用した市民満足度調査を実施し、当該結果を市民及び市内部に周知していくとともに、より満足度が高まるよう、各部局における「情報共有」、「市民参加」の取組推進を促していく。

(3) 行政評価の活用

20年度の実施結果を踏まえ、今年度の実施にあたっては「職員のための情報共有・市民参加推進の手引き」に沿った評価となるよう通知しており、この結果検証を通じて、更なる取組推進を図っていく。

(4) 有識者からの意見聴取

市民による集中評価会議に加え、有識者から市の取組に対する評価や意見等を伺う機会を試行的に設けていく。